

「芯の通った学校組織」推進プラン
第3ステージ2年目に向けて

大分県教育庁別府教育事務所

令和2年度別府教育事務所管内戦略・行動計画 総括

管内戦略

1 学校マネジメントの深化(第3ステージ)

成果:○主任等を軸とした、組織マネジメントの推進体制の向上【観点Ⅲ】

課題:●重点目標の達成に近づく妥当な根拠や理由を説明できる達成指標、重点的取組及び取組指標を設定する。

その結果、育成を目指す資質・能力がよりの確に見取れるものとする【観点Ⅰ】

●育成を目指す資質・能力にもとづく目標協働達成の更なる具体的な推進(家庭・地域の主体的な熟議の推進)

【観点Ⅱ・Ⅳ】

2 授業改善の徹底

成果:○研究主任を中心とした組織的な授業改善による授業構想力の向上

課題:●単元構想をもとにした1単位時間のねらいに応じた具体的な評価規準の設定

●「努力を要する状況」の児童生徒に対する具体的な手立ての工夫

●「生徒と共に創る授業」の更なる推進(中学校)

3 いじめ・不登校対策等の推進

成果:○関係機関と連携した支援体制の充実

課題:●授業で全児童生徒の「できた」「わかった」につなげる手立ての充実

●集団づくりに対する取組の更なる充実

4 「教育県大分」を担う人材育成

成果:○「大分県公立学校教員育成指標」を有効活用(自己評価等)

課題:●キャリアステージに応じた校内の人材育成体制の更なる充実

5 体力向上の推進・健康課題への対応

成果:○コロナ禍においても一校一実践等の取組を工夫して実施(体育専科教員等の活用)

課題:●運動愛好度の更なる向上に向けた組織的な取組の充実

6 「個別の指導計画」の活用推進

成果:○特別支援教育の視点からの指導力の向上(「個別の指導計画推進教員」の活用)

課題:●個別の指導計画をツールとした日常的な支援及び改善(学期毎のPDCA、質の高い支援等)の充実

行動計画

第3ステージ1年目における管内の課題

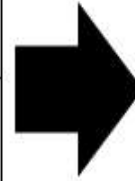
学校マネジメントの深化(第3ステージ)

- 重点目標の達成に近づく妥当な根拠や理由を説明できる達成指標、重点的取組及び取組指標を設定する。
その結果、育成を目指す資質・能力がよりの的確に見取れるものとする。【観点Ⅰ】
- 育成を目指す資質・能力にもとづく目標協働達成の更なる具体的な推進(家庭・地域の主体的な熟議の推進)
【観点Ⅱ・Ⅳ】

第2ステージ

〇〇〇立〇〇〇〇学校
校長 〇〇 〇〇
平成31年度 学校評価の4点セオ

学校の教育目標:				
学校の教育目標 実現のための 見据の理念を 踏まえた 重点目標	重点目標に係る 目指すべき子どもの 姿となる 達成指標	達成指標を達成する または近づかぬための 重点的取組 <small>(※別添資料参照)</small>	重点的取組に係る 具体的な 取組指標 <small>(※取組が、何を、どこで、どのくらいの実現度で)</small>	担当



育成を目指す資質能力の三つの柱

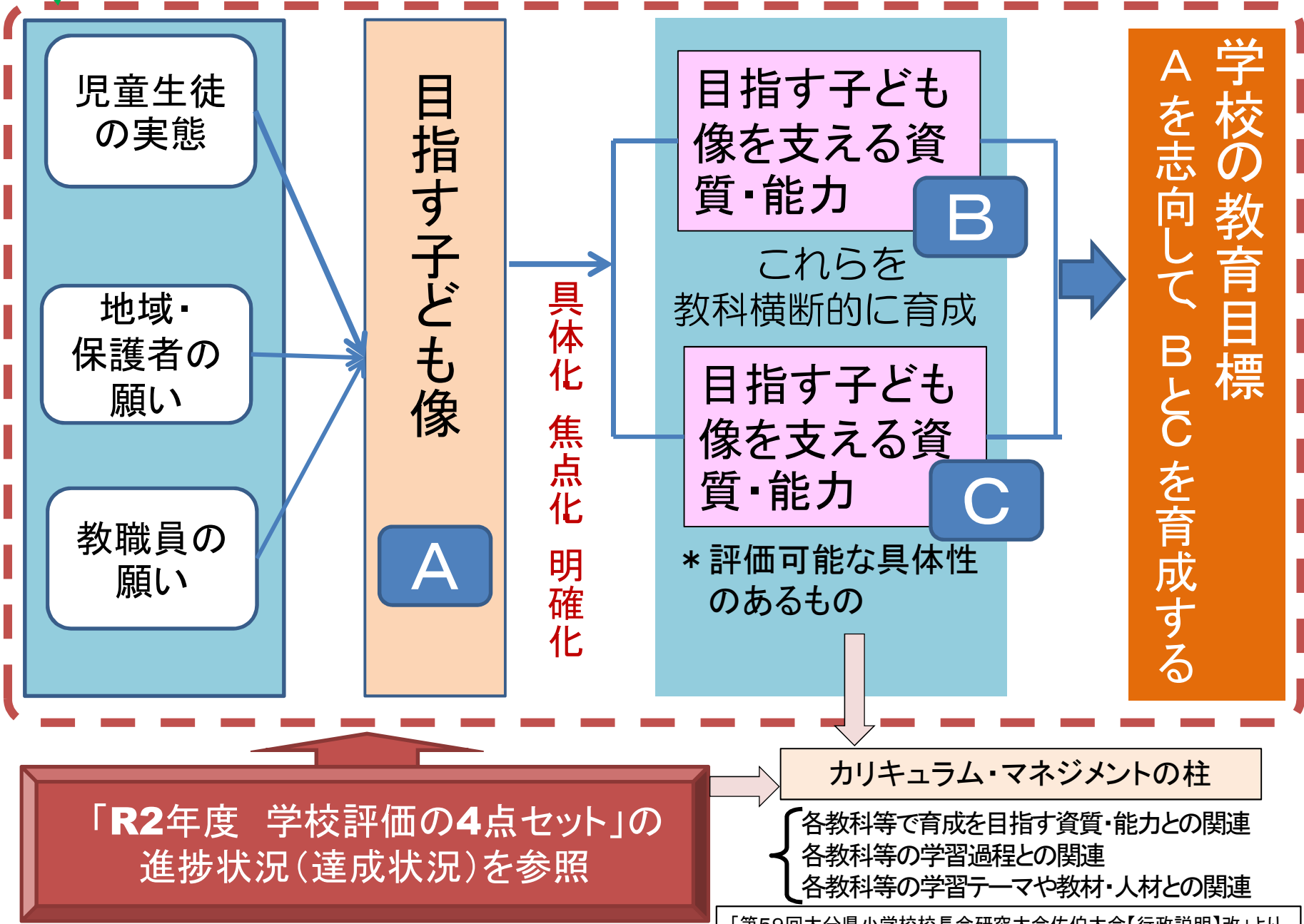
第3ステージ

〇〇〇立〇〇〇〇学校
校長 〇〇 〇〇
令和2年度 学校評価の4点セオ(案)

学校の教育目標:				
育成を目指す資質・能力:				
学校の教育目標 実現のための 見据の理念を 踏まえた 重点目標	重点目標に係る 目指すべき子どもの 姿となる 達成指標	達成指標を達成する または近づかぬための 重点的取組 <small>(※別添資料参照)</small>	重点的取組に係る 具体的な 取組指標 <small>(※取組が、何を、どこで、どのくらいの実現度で)</small>	担当
知識・技能				
知識及び技能の習得				
考力・判断力・表現力等				
思考力・判断力・表現力等の育成				
学びに向かう力・人間性等				
学びに向かう力・人間性等の涵養				
働き方改革				
働き方改革の推進				

見直し【例1】

「学校の教育目標見つめ直し」イメージ



「第59回大分県小学校校長会研究大会佐伯大会【行政説明】改」より

見直し 【例2】

今年度の学校全体で育成を目指す資質・能力



3つの柱	(知)		(徳)		(体)	
	実態	育成を目指す 資質・能力	実態	育成を目指す 資質・能力	実態	育成を目指す 資質・能力
① 「知識及び技能の習得」 生きて働く		④				
②						
③ 未知の状況にも対応できる「思考力判断力表現力等」の育成						
学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力 人間性等」の涵養						



来年度育成を目指す資質・能力 一つまたは二つ程度



学校の教育目標

見直し

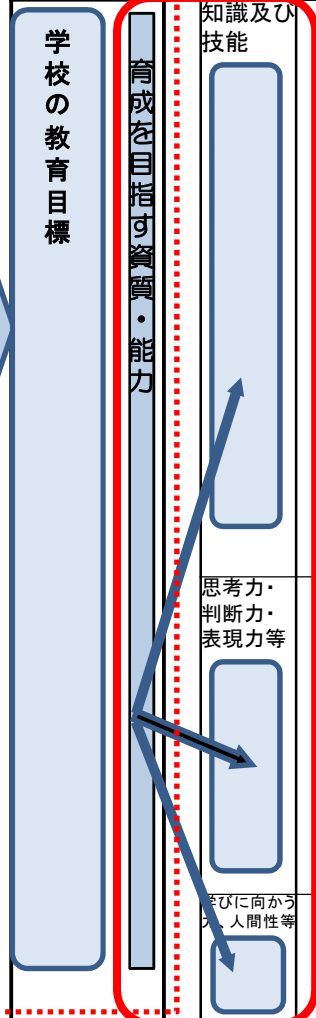
【例2-1】

※児童生徒の実態等から育成を目指す資質・能力を明確にする過程

「R2年度 学校評価の4点セット」の進捗状況(達成状況)を参考

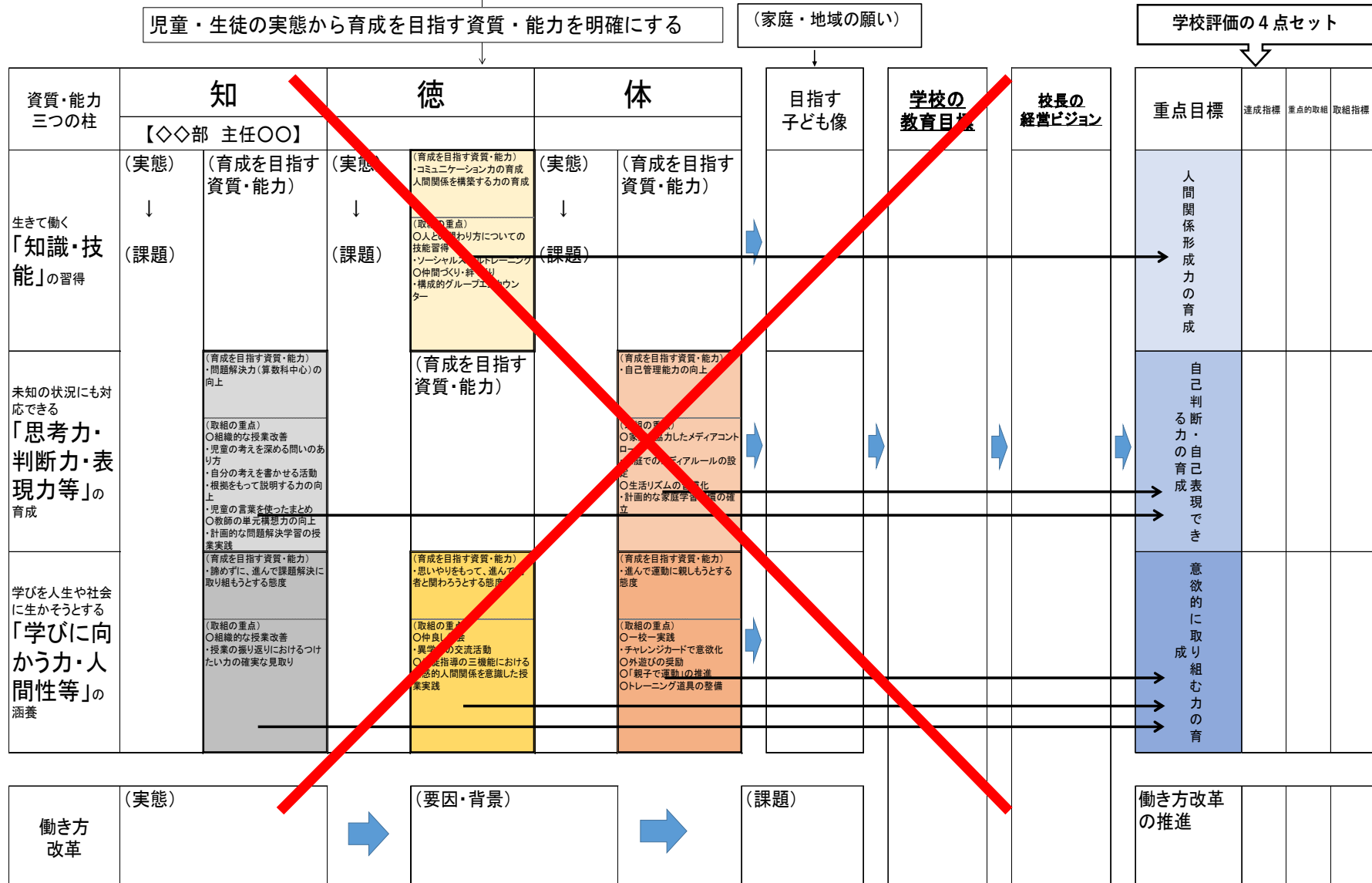
育成を目指す資質・能力の三つの柱	知(主に各教科) 【◇◇部 主任○○、副主任○○】	徳(主に道徳) 【◇◇部 主任○○、副主任○○】	体(主に保健体育) 【◇◇部 主任○○、副主任○○】	学校の教育目標の設定	重点目標	進捗指標	取組指標
子ども、学校の実態	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力(国・算)ともに向上。 ○低学力層は減少傾向。 ●算数の割り算が弱い。 ●学力の二極化あり。(支援を要する児童が一定の割合いる。) ●問題を読み取る力弱い。 ●県調査活用問題(算数)偏差値50以下。 						
生きて働く知識及び技能の習得	(課題) 1 ・基礎的基本的学力の定着 ・個人差が大きい(2極化)	(具体的な資質・能力) 4 ・語彙力 ・読解力 ・学習規律 ・計算力(除法中心)	(課題)	(具体的な資質・能力)	(課題)	(具体的な資質・能力)	
	(理由) 2 ・学習習慣未定着 ・個に応じた指導不足 ・家庭環境、保護者の関心、意欲 ・授業改善の未徹底(未熟な単元計画)	(考えられる改善策) 3 ○組織的な授業改善の徹底 ・1時間の付けたい力を明確にした授業実践 ・努力を要する児童及び特別な支援を要する児童への具体的な手立ての工夫 ○習熟度別授業の推進 ○補充学習指導の充実 ○朝読書の充実	(理由)	(考えられる改善策)	(理由)	(考えられる改善策)	
未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成	(課題)	(具体的な資質・能力)	(課題)	(具体的な資質・能力)	(課題)	(具体的な資質・能力)	
	(理由)	(考えられる改善策)	(理由)	(考えられる改善策)	(理由)	(考えられる改善策)	
学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性等の涵養	(課題)	(具体的な資質・能力)	(課題)	(具体的な資質・能力)	(課題)	(具体的な資質・能力)	
	(理由)	(考えられる改善策)	(理由)	(考えられる改善策)	(理由)	(考えられる改善策)	

(実態) → (課題) → (理由) → (改善策) → (具体的な資質・能力)



学校の教育目標の設定・見直し、4点セット重点目標の設定(例)

(「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」)⇒「社会に開かれた教育課程」の実現、「カリキュラムマネジメント」の実現



育成を目指す資質・能力に係る設定例

3つの柱	育成を目指す資質・能力(例)					
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">「知識及び技能の習得」 生きて働く</p>	<p style="text-align: center;">学習指導要領総則に明記</p> <p>【教科横断的な視点に立った資質・能力】 ○学習の基盤となる資質・能力 ア 言語能力 イ 情報活用能力 ウ 問題発見・解決能力 ※下線は「三つの柱」ごとに明文化あり ○現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康・安全・食に関する力 ・主権者として求められる力 ・新たな価値を生み出す豊かな創造性 ・グローバル化の中で多様性を尊重するとともに、現在まで受け継がれてきた我が国固有の領土や歴史について理解し、伝統や文化を尊重しつつ、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する力 ・地域や社会における産業の役割を理解し地域創生等に生かす力 ・自然環境や資源の有限性等の中で持続可能な社会をつくる力 ・豊かなスポーツライフを実現する力など <p>※総則小学校P48～、中学校P49～</p>	<p style="text-align: center;">ESD（持続可能な発展のための教育）</p> <p>○持続可能な社会づくりの構成概念</p> <ul style="list-style-type: none"> I 多様性 II 相互性 III 有限性 IV 公平性 V 連携性 VI 責任性 	<p style="text-align: center;">キャリア教育</p> <p>○人間関係・社会形成能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションスキル ・チームワーク等 <p>○自己理解・自己管理能力等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・忍耐力 ・主体的行動 等 <p>○課題対応能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題発見 ・計画立案 ・評価、改善 等 <p>○キャリアプランニング能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶこと、働くことの意義や役割の理解 ・多様性の理解等 <p>※「キャリア教育にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書」 一国立教育政策研究所一（H23.3月）</p>	来年度育成を目指す資質能力一つまたは二つ程度	学校の教育目標	
	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">未知の状況にも対応できる「思考力判断力表現力等の育成」</p>		<p>ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度（例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 批判的に考える力 ② 未来像を予測して計画を立てる力 ③ 多面的、総合的に考える力 ④ コミュニケーションを行う力 			
	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">「学びを人生や社会に生かそうとする」 「学びに向かう力、人間性等の涵養」</p>		<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 他者と協力する態度 ⑥ つながりを尊重する態度 ⑦ 進んで参加する態度 <p>※「ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み」 一国立教育政策研究所一</p>			
今年度の学校全体で育成を目指す資質能力						

目標協働達成に向けたチームとしての学校運営協議会

年間スケジュール（例）

※学校運営協議会を年間3～6回開催する場合

	家庭	学校	地域
3学期	PTA役員会 1年間の取組の検証・総括	運営委員会 1年間の取組の検証・総括	自治会役員会等 1年間の取組の検証・総括
	学校運営協議会〈2～3月〉 熟議内容 ◆1年間の取組の検証・総括 ◆育成を目指す子ども像と資質・能力 ◆次年度の年間活動計画案（行事等の精選・見直し、役割分担の見直し含む） ◆次年度の「学校評価の4点セット」案		
1学期	PTA役員会 新体制で重点的取組を確認	運営委員会 新体制で重点的取組を確認	自治会役員会等 新体制で重点的取組を確認
	学校運営協議会〈4～5月〉 熟議内容 ◆育成を目指す子ども像と資質・能力の確認 ◆「学校評価の4点セット」の確認・修正 ◆年間活動計画・活動内容の確認・修正 ◆各取組の進捗管理、検証・改善		
	各家庭への周知 取組の実践 ← 連絡・調整 → 取組の実践 → 連絡・調整 → 地域への周知 取組の実践		
	〈学校公開・授業参観〉学級懇談等の場において各家庭での取組や目標の達成状況、学級独自の課題について検証し取組を検討。		
	PTA役員会 1学期の取組の検証・総括	運営委員会 1学期の取組の検証・総括	自治会役員会等 1学期の取組の検証・総括
学校運営協議会〈7～8月〉 熟議内容 ◆各取組の進捗管理、検証・改善			

2学期も「学校運営協議会 → 周知・実践 → 各組織内での検証・総括 → 学校運営協議会」のサイクルを継続していきます。

POINT ④ 校内の検証・改善サイクルと学校運営協議会の開催時期・熟議内容の連動と年度末までの「学校評価の4点セット」案の策定が重要（「検証・改善サイクル」のPOINT欄参照）また、家庭や地域全体の取組として展開していくためには、家庭や地域の各組織内で積極的な周知と徹底の働きかけを行うことも重要

来年度「学校の教育目標」の設定スケジュール

	1月	2月			3月		
	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
学校		<ul style="list-style-type: none"> 今年度「学校の教育目標」の総括 来年度「学校の教育目標」(一次案)作成 			学校運営協議会等(学力向上会議等)で令和3年度の「学校の教育目標(案)」と4点セット(案)の進捗状況の協議	「学校の教育目標(案)」の文言を整理し、学校案をまとめる	来年度「学校の教育目標(案)」を決定し、保護者・地域と共有
保護者		小中連携 目指す子ども像等を中学校区ですり合わせる					
地域							
事務所 市町村教育委員会		「学校マネジメント相談窓口」の活用 ※市町村教委を通して事務所と日程調整				①令和2年度「学校評価の4点セット」総括 ②令和3年度「学校評価の4点セット(案)」 ①②を提出	